

# 安曇野市公民館報

安曇野市  
中央公民館  
No.13 2013.7.24  
TEL62-4565

## オオルリシジミ飛び交う里山

堀金地域岩原区と地区公民館はこのほど「オオルリシジミ・現地見学会」を国営アルプスあづみの公園計画地の保護区域内で開いた。江田慧子農学博士（信州大学山岳科学総合研究所助教授）と那須野雅好安曇野オオルリシジミ保護対策会議会長を講師に、地域に存在する絶滅危惧種の実情を学んだ。

### 安曇野に見える自然環境

オオルリシジミは東北地方や中部地方で見られたが、現在、九州阿蘇地方と長野県の飯山市、東御市、安曇野市の4カ所にしか生息していない。国の絶滅危惧種Ⅰ類



オオルリシジミとクララ

自然淘汰による生物の種の絶滅は、地球の生命の歴史の上では幾度も繰り返されてきた。経済活動が生物環境に与える影響で起こる種の絶滅は、社会の在り方にも深く影響する。生息環

及び長野県指定希少野生動物植物に指定されている。

オオルリシジミの幼虫はクララの芽蕾だけを食草とし、蝶は花穂や新芽に卵を産みつける。クララはマメ科の多年草で根をかむとクラクラするほど苦いので眩草（くらくらぐさ）と呼ばれる、転じて和名がクララと称された。



オオルリシジミの写真を撮る参加者

## 地区公民館報の作成

### 目をひく紙面づくりを学ぶ

6月20日、第2回穂高地区公民館役員研修会が穂高会館第2会議室で行われた。

今回の研修会は「地区公民館報の作成について」目をひく紙面づくり」と題して、市民タイムス安曇野支社報道課記者の浅川寛子さんを講師に、作成のポイントを学んだ。

その中で「人が主役の紙面づくりを心がけ、写真はできるだけ人物を入れて撮り、下からあおつたり、上から狙ったりして工夫をすると良い構図になる。地区の公民館報は、地域の人が取材をするの

でいい表情のものが撮れる。」また「記事を読んでもらうためには、良い見出しをつけることが大切」として、主見出し8〜10文

境の保全や保護活動により絶滅危惧種の現状を把握し評価していく必要がある。

安曇野のオオルリシジミは卵に寄生するメアカタマゴバチによって絶滅の危機にひんしていたことが信大の研究によって発見された。対策として野焼きの実施により、自然個体は平成23年に復活し現在多数が確認されている。

那須野会長は軒先ごとのクララの育成栽培を呼び掛け、江田博士

字、脇見出し10〜12文字を基本として、用意された記事をもとに、見出しをつける練習をした。本文の中から引用してつけるのが基本だが、テレビCMやマンガを見て、やはり言葉を取り入れるとよりインパクトがある見出しになる。



熱心に聞き入る公民館役員の皆さん

は「ちようちよのりりい・オオルリシジミのおはなし」の絵本を出版するなどして保全保護につながるさまざまなメッセージを発信している。

安曇野オオルリシジミ保護対策会議は19年にわたり保護活動を行ってきた。限られたエリアでの活動には限界があり、生息環境の多様化を目指して地域住民の協力が重要な鍵を握っている。

(山楽子)

**私は一生懸命**  
 畑作などにも挑戦したことはあるが、結局は米栽培が中心となり、ここ数年連続して「米・食味分析鑑定コンクール国際大会」にて最高位である金賞を受賞。「有機米だから美味しいとは限らない



有機農業に取り組む細井正博さん(豊科南穂高)

脱サラして有機農業に取り組むようになり11年。はじめは家の田んぼの手伝いをしたが、小さい頃に見たり遊んだりしていた田んぼの様子と全く違うことにがくぜんとし、何故だろうと思ったのが有機に出会うきっかけ。生きものがいない、雑草がない、何か工業生産的な農業に違和感を持ったのだ。

**古きを尋ねて**  
 ⑩旧温明小学校・校門脇  
 ユリノキとヒマラヤスギ  
 三郷総合支所前の庭園にユリノキとヒマラヤスギの大樹がそびえ立っている。共に樹高約25メートル、約3・1メートル、1908年(明治41年)の植樹以来105年を数える。一日市場出身の白沢保美林学博士(元日本林学会会長)により旧温明尋常小学校の開校を記念して植えられた。傍らには旧温明小学校時代の校門であった2本の石柱が立っている。白沢博士は森林植物学の研究及

び万国博覧会の委員として、明治33年よりフランス、ドイツ、スイスに留学した。ユリノキは北米大陸から、ヒマラヤスギはインドから留学の帰途、苗木を持ち帰った。記念樹は博士が国立林業試験場時代の明治41年に植えたものである。以来、再三にわたる道路拡張や舗装工事、上下水道工事、学校改築や庁舎の建設などで根元が痛め付けられてきたが、堂々たる雄姿を見せ続けている。ユリノキは6月頃、淡い黄緑色の華麗な花を咲かせ、その花が百合の花に似ていることから「ユリノキ」と名付けられた。一方、葉の形が「半纏木」ということで「半纏木」と

も呼ばれている。海外では花の形にちなみ「チューリップツリー」と呼ばれている。現存するユリノキは博士が持ち帰った5本のうち、上野の国立博物館前庭に残っている一本と、三郷の記念樹が日本最古のものであると伝えられている。ヒマラヤスギはあがたの森の同種に匹敵する県内最古級のものと言われている。秋に雄花が



開花すると花粉で地面が淡黄褐色になり雌花は球果をつける。ユリノキとヒマラヤスギの間に博士がドイツ留学中に訳して、自ら愛唱し、心の糧として励んだという、南ドイツ生まれの詩人ツェーザル・フライシユレンの詩の歌碑が後世の卒業生により建立されている。心に太陽を持って照る日曇る日そりや天候だ。風が吹こうと、雪が降ろうといつも心に太陽を持って。

**紫・しろ・彩り美しく 匂うあやめ公園**  
 あやめまつり開催期間中の6月23日は、日曜日とあって、梅雨空を吹き飛ばすように、人がどっと出てきて会場を埋め尽くしました。子どもに人気の高いにじますつかみどりは、1人で10匹の戦果をあげていく子どももいました。待ち行列のできた「チャリティー灰焼きおやき」の人氣は高く、灰のなかから取り出されるとあつという間になくなってしまいました。モザイク・アート展は、会場内風景を写真にして、その中に市民の笑顔、ポーズをとる子どもたちの写真で



モザイク・アートすごいね!

**安曇野に ジブリの世界をつくる会**  
 結成4年目、子ども合唱団ができて2年目、500人ほどが参加して毎年秋に公民館ホールで開催するコンサートに向け、大会議室で練習を行っている。指導責任者たぐちたみさんのもと、小中学生14人が楽しそうに美しい声を響かせていた。

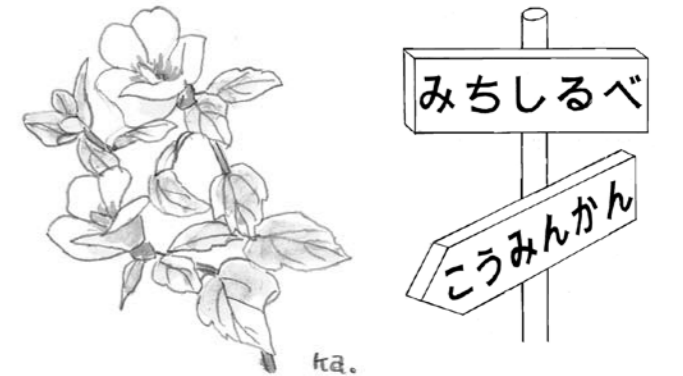
**6/9 穂高ソフトボール大会**  
 午前8時、市営有明運動場で第8回ソフトボール大会が好天のなか行われ、今年、27チームが出場した。Aブロックは嵩下公民館、Bブロックは久保田公民館が、それぞれ優勝の栄冠に輝いた。



ジブリの世界を歌う



ソフトボール大会開会式



絵:加々美 豊  
花:ムクゲ

**ワンバウンドふらば〜る バレーボール教室**  
 三郷公民館は5月、毎週木曜日に三郷文化公園体育館で「ワンバウンドふらば〜るバレーボール教室」を開いた。教室終了後クラブが開いた。20数人が木曜日の夜、楽しみながら練習を始めた。同館は、7月にも同教室を企画し参加を呼び掛けている。



いい汗かいて

**フルーツの調べ ロビーミニコンサート**  
 堀金公民館は5月25日、同館ロビーで「ロビーミニコンサート」を開いた。堀金地区在住で企業経営の傍らフルーツ奏者として活躍する平倉盛重さんが演奏した。「有名な曲は、失敗するとすぐに判ってしまうからやりにくい」と言いながら日ごろの練習の成果を披露した。



平倉盛重さん

ロビーに50人ほどが集まり、クラシックから映画音楽、民謡、唱歌、と身近な雰囲気の中で土曜日の午後のひと時「フルーツの調べ」を楽しんだ。



午後のひと時、フルーツを楽しむ

**万人巻首**  
 短歌  
 あじさいの葉にうづくまる青蛙  
 汝もゆく末思っているか  
 植えしより十年を経て山法師  
 枝一杯に花咲かせたり  
 思惟ひとつ秘めいるごとく雨に咲く  
 あやめの紫揺るるともせず  
 孫子等と北信濃路を辿りつつ  
 いささか疲れ寛ゆ湯の宿  
 農業に苦楽を共にすごし来て  
 六拾五年の婚を迎へをり  
 中萱 野本 やす子  
 及木 高山 きし  
 檜 石曾根 千代子  
 一日市場 穂苺 照子  
 住吉 児嶋 たかの  
 一俳句・短歌の作品をお寄せくださいー  
 〒399-7102 安曇野市明科中川手2914番地1  
 教育委員会社会教育課内館報編集事務局 宛  
 TEL.62-4565 FAX.62-3525  
 E-mail:shakaikyoku@city.azumino.nagano.jp  
 次号は9月4日発行、8月8日締め切りです。

# 地区公民館だより

## 穂高地域 島新田公民館

『A T G 23』

「誰も好きで役員になつた訳ではない。どうせやるなら、明るく楽しく元氣よく、自らも楽しんでやろうよ。」今風に言えば『A T G 23』のデビューです。

組織は館長、副館長、主事、会計の四役と文化・厚生、体育、女性の三部にそれぞれ部長、副部长を配置し、担当事業を割り振っています。23人の役員の約7割が女性のため、にぎやかでパワフルな活動が展開されています。

年間の主な事業は14。区などの共催事業もありますが、ほとんどが主催事業です。また、貴重な日曜日が多いため、参加者が限られたり、増えないことが悩みであります。その他毎月、公民館(島新田会館)の清掃作業、公民館報(しましんでん)も年間10号の発行を目指して取り組んでいます。昨年度は、役員総入れ替えだったこともあり、前年踏襲型で推進してきました。4月早々のウォー



キングからはじまり、6月のちよつと早い敬老会は、大きな事業のひとつであります。70歳以上の対象者の約3割が参加。来賓の市長や議長の祝辞に耳を傾けていました。また、こども会の余興や地元クラブの民舞などを楽しみ、カラオケの場面では最高に盛り上がりました。8月のわさび祭りでは、ステージ上での踊りの披露ができ、よき思い出となりました。10月の親睦バス旅行は、黒四ダムなど三つのダム見学に、ダムカレーを食すダム三昧で、多くの参加者に満足いただけたと思っております。また、人権学習会は北穂高三地区公民館合同で楽団「ケ・セラ」のコンサートを実施。大きな感動をいただき有意義な一夜となりました。11月のボウリング大会も毎年好評で、老若男女を問わず多くの皆さんが参加。12月には女性部担当による料理教室で、そば打ちとおやき講習、生花教室では正月飾りの講習会を行い盛況でした。また、地区公民館対抗球技大会にも積極的に参加し、二つのカップを公民館に飾ることができました。

今年度は2年目、『A T G 23』の最後の舞台ゆえ、多少の変化球を交えながら直球勝負を心がけます。(島新田地区公民館長 小林一三)

## グループ紹介

### ふるさとを学ぶ 堀金友の会

「ふるさとを学ぶ堀金友の会」は、昭和49年(1974)に発足し、40年の歴史を積み重ねてきた。公民館の講座から継続して20人ほどでスタートし、発足当時は「堀金村郷土史研究会」の名前で活動を始めた。

安曇野市の合併誕生を契機に

「親しみやすい柔らかい名前にした」との思いから改称した。会員の高齢化や世代交代もあり現在の在籍者は8人で、定例会は毎月1回、宮下前会長宅の史料棟を事務所にして研究を続けている。事業目標は「ふるさと

の歴史、文化、民族、生活、産業、自然分野等を学び、楽しみながら



ら知識を広め、文化の伝承・記録保存・啓蒙に努める」としている。平成24年、会員が協力しあつてA4判170ページの「堀金の民話と伝説」を刊行した。作品構想は、5年ほど前の堀金文化祭に手書きで手作りの民話を展示発表したことで盛り上がった。前会長が以前から書きためていた聞きとり史料を題材に、会員が民話の背景を調査して現地に出向き撮影を実施した。

明治中期生まれの先輩方から聞いた話を始め、語り継がれてきた堀金全地区の民話36話を掲載している。84点に及ぶ征矢野久画伯の挿絵も絶妙に描かれている。

民話のもつ歴史的な背景や伝承を忠実に記したので、親が自分のことばで子どもに話し、子どもがふるさとに親しみをもって欲しいと願っている。書籍取り扱い連絡先 立澤会長(☎73・2222)

(T・Y)

## 櫻

赤れんがの建物として知られる東京駅丸の内駅舎が、保存・復原工事を終え、昨年10月1日開業し話題です。

碌山美術館の赤れんがについて同館にお尋ねしたところ、瀬戸(愛知県)の「焼き過ぎれんが」を用い、積み方はれんがの長手のみをジグ

ザグに積む「長手積み」とのこと。「設計は、早稲田大学図書館などの作品で知られる今井兼次、総監督は彫刻家の笹村草人が務め、明治という時代の持つ重量感と雰囲気を感じさせる建物となっています。」とお話でした。

(N・N)